令和５年度次世代のためのメディアリテラシー育成事業　ふくしま情報モラル教育研究校

白河市立表郷小学校　第４学年１組　道徳科学習指導案

時間：令和５年６月１２日(月)　第５校時

場所：イングリッシュルーム

１　主題名　　度がすぎないために　　【A-(３)　節度・節制　】

２　教材名　「　心の体温計　」　(光文書院「小学道徳　ゆたかな心　４年」)

３　主題設定の理由

　(1)　子どもの実態について

（略）

　(2)　ねらいとする道徳的価値と主題について

本主題は、学習指導要領のＡ－（３）「節度、節制」の「自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をすること。」に基づいたものである。中学年になると、他から言われるのではなく、自分でできることは自分で行ったり、自分で考えて行動したりする機会が増えてくる。そのため、わがままをしない規則正しい生活を大切にすることや、生活に一定のリズムを作ることが必要になってくる。

そこで、子どもが学校や家庭における生活の中で、自分自身で考えて度を過ぎることなく、節度ある生活のよさを考えることができるようにしたい。

　(3)　教材について

主人公は、テレビゲームのやり過ぎやテレビの見過ぎで、いつも母親から度が過ぎると叱られている。そのため、度が過ぎたら教えてくれる「心の体温計」があればよいと思っている。「心の体温計」とは、自分の中でものごとの過不足を計るものという意味である。また、心の体温計という考えが、自分の行動を客観的に捉え、行動を律するための目安になると考える。「心の体温計」をもつことは「独り立ち」ができたということであるため、自立を促す教材としても適している。

関連する内容項目として、自分自身のことを自分で行うことは自律の心につながることも学習できる。

(4)　指導について

子どもはやらなければならないことを当たり前に行うことが大切だという認識はもっており、低学年から指導もされている。しかし、自分の感情や欲望を優先し、度が過ぎてしまうことも多い。節度ある生活を送らせるために、自分自身を省み、自分でできることや度が過ぎてしまっていることを考えさせることが重要である。なぜ、度が過ぎてはいけないのかを、アンケート結果から考えさせたり、「心の体温計」という言葉を交えて考えさせたりしたい。そして、適宜自分でできることを考えさせる機会を設け、継続的に指導をしていきたい。４年生の実態として、様々な面で活動が活発になるこの時期に、自分の行為がどのような影響を及ぼすかについて自分の生活や内面を振り返って考え、自分から節度ある生活をしようとする心情を育てたい。

４　本時のねらい

　自分自身の生活や内面を振り返る活動を通して、度が過ぎないために節度ある生活をしようとする心情を育む。

【Ａ-(３)】

５　学習過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **学習活動・内容** |  | **〇教師の働きかけ　　　　※評価** |
| １　「度がすぎる」ことについて、自分の生活を振り返る。  ・ゲーム等のやりすぎ  ・テレビの見すぎ  ・タブレットの使いすぎ  ２　メディア使用時間についてのアンケートの結果から、児童の実態について確認をする。  メディア使用時間について提示  　　　（略）  　　　　（略）  ３　「心の体温計」を読み、節度ある生活について話し合う。  （１）お母さんは、どうしてひろとに「度がすぎる」と言ったのか考える。  ・ゲームばかりしている  ・テレビばかり見ている  ・やるべきことを後回しにしている  （２）「心の体温計」が欲しいと思ったひろとの気持ちについて話し合う。  ・どうすれば「度がすぎない」ようにできるかな  ・「度がすぎない」ように自分で何とかしたい  ・生活を変えたいと思った  （３）ひろとがすっきりした気持ちになった理由は何か話し合う。  ・母からしかられなくなった。  ・「度がすぎた」ことを意識できるようになった。  ・自分をコントロールできるようになってきた。  ４　自分の生活や内面を見つめ直す。  ○やり過ぎて困った経験とその気持ち  ○自分からやり過ぎないようにした経験とその気持ち  ５　本時を振り返る。  　・これから大切にしたい気持ちは何かを考える。 | 5分  5分  5分  5分  15分  10分 | ○　今まで自分がやり過ぎて困った経験などを思い出させ、どんなときに、どんなことで「やりすぎる」ことがあるのかを考えることができるようにする。  ○　ゲームのことだけではなく、生活でもそのような経験があるかを考えられるようにする。  視点１　**授業づくりにおいて、子どもが「学ぶ楽しさ」を味わうための工夫**  児童の実態アンケートから、メディア使用時間について考えさせることで、一人ひとりの時間の長さに対する考え方が違うことに気付かせる。  ◯　本文の中で「度がすぎている」のは誰なのかを考え、お母さんとひろととのメディア使用時間に対する考えにズレがあることに気付けるようにする。  ◯　ひろとの生活の様子や「心の体温計」という言葉の意味に着目させ、「心の体温計」が必要だと感じたひろとの気持ちを考えられるようにする。  ○　教科書の挿絵を見せ、ひろとの体温計の温度が上がってきたのはどんなときなのかを考え、自分の中でそのような経験があるか話し合えるようにする。  ◯　「心の体温計」を意識し、「自分自身で何とかしよう」という気持ちが高まったひろとの成長に気付かせるようにする。  ※　ひろとの心の中の迷いに自分を重ねながら、節度ある生活をしたいと考えるひろとの考えや友達の考えをもとに、自分の考えを深めているか。  （記述・発言）  視点２　**授業において、子どもが自己の成長を感じるための工夫**  「度がすぎない生活を送るためにはどんな気持ちが大切か」を問い、書かせることで、これからの「節度ある生活」につなげることができるようにする。    ※　自分の生活を振り返り、節度ある生活について考えを深めているか。　　　　　（記述・発言） |

６　板書計画

6月12日　　１８　心の体温計

「家でおこられたこと」

・ゲームのやりすぎ

・テレビの見すぎ

・タブレットの使いすぎ



・何とかしたい

・生活をかえたい

・時間を大切にすごしたい

・自分をコントロールする

グラフ

（略）

７　提示資料

　・教科書の挿絵４枚（略）